

## 新年の抱負

「学びは己のためならず」 山下太郎

新年明けましておめでとうございます。

激動する世の中の変化に呼応する形で、よりよい教育を求める議論が年々声高に聞こえてきます。しかし、文部省主導で何か目覚ましい変革が起こることを期待するのでは、いつまでたっても、靴の上から搔くようなもどかしさを感じます。

私は、今すぐ誰にでもできる、教育をよくする道があると思います。その第一歩は、各自が——若いも若きも——「自分をよりよく変えていこう！」とする「学び」の決意をもつことです。かねてから申していますとおり、受験勉強偏重は、合格と共に「学び」がストップする弊害が懸念されます。しかし、それを批判する大人も——むろんこの私も含めて——、忙しさを口実として「学び」を停滞させているおそれがないでしょうか。

言うまでもなく、「学び」は教室の中だけにとどまるものではありません。教科の学習だけがその対象になるのでもありません。大学の創始者プラトンは、「善く生きる」ことの意味を終生問い続けました。生きる意味を様々な形で「学び」、それを咀嚼した上で自ら考えることの大切さは、生涯変わらぬものはずです。この努力を停滞させるなら、無意識のうちにも他人の意見をうのみにし、「比較」の中でしか己の価値を見出せない——裏返せば自分には価値がないと卑下してしまう——悲劇もおこりえます。言い換えますと、「みんなが・・・するから自分も・・・する（しなければならぬ）」と考える癖がつくと、自分の生きる意味を見出せなくなります。

私が上で述べた「学びの決意」とは、「(他人はどう言おうと)自分はこうしたい、こう生きたい」という強い決意をもつことが前提になります。その強い思いがあれば、どのような困難にも耐えて知識を獲得することができるのです。さらには、自分を高みに導く書物や人との対話も、すべてが乾いた砂地に水がしみこむように、ぐんぐんと吸収され、自らの成長の糧となるのです。

このような「学び」の意識をもつ者同士は、年齢に関係なく、互いにより影響を与え合い、切磋琢磨できるのだと思います。逆に、師弟においても、親子においても、友人の間においても、誰かが「学び」の気持ちを放棄したら、そこにより関係は結ばれません。人として生まれ、自らを「理想」に近づける努力の一步一步。誰に命令されるわけではなく、強いて言えば、自分で自分に命令することによって進んでいく、そのような自立的な生き方に、若いも若きも区別はありません。

たとえ本人は暗中模索の日々であっても、努力する真摯な姿勢とその実践は他者に勇気と希望を与えます。つまり「学びは己のためならず」ということです。「努力の社会化」と言い換えてもよいと思います。個々の努力は目に見えない糸でしっかりつながっているのです。

誰もが人生という山道の登山者であり、それは椅子取りゲームとは本質的に違います。山道を行き交う人が自然に声を掛け合い、山頂を目指すように、私たちは、一步一步目の前の道を登っていきたいと思います。すでに先人のつけてくれた山道、さらには山そのものの存在に感謝しつつ。本年もどうぞ宜しくお願いします。

第7回

# ミニミニようちえん



前回のおともだち。またあそびにきてね！

「ようちえんごっこをしよう！！」

日時：2月5日（土） 午前10時～11時00分

場所：つきぐみのおへや

対象：未就園児（年齢は問いません）とそのご家族

\*お母さんと一緒に歌ったり、お友達と遊びましょう！

第8回

# ふれあいサタデー



昨年きてくれたお兄ちゃんたち。また、きてね！

「むかしあそびをして楽しもう！」

日時：2月19日（土） 午前9:30～11:00

場所：つき組のお部屋

対象：在園児・卒園児・山の学校会員・ご家族・お知合い

\*けんだま、こままわし、お手玉、おはじきコーナーがあります。外では羽子板、竹馬をしましょう。

注：1月のふれサタ（大文字登山）の日が雨天だった場合は、繰り越しで2月のふれサタが「大文字登山」になります。

第9回

# 山びこクラブ



「ひねもす・まつり」

1月21日（金）午後4:00～5:30

場所 北白川幼稚園内・ひねもす部屋

対象 小学生 / 無料

\*お正月は、みんなどうしてたかな～？ お正月のおしゃべりに花をさかせながら、楽しく遊びましょう！

（新聞の広告を1たば、おひとりずつ持ってきてください）

\*暗くなりますので、お迎えを山の下までおねがいたします。

# 青春ライブ授業！

2月の『青春ライブ授業！』は、3月初旬に予定しています。第2回目の細水康平先生（太陽電池の研究者）をお招きします。ご期待ください！

午後7:00～8:30 場所 第3園舎（つき組の部屋）対象 中学・高校生・一般 / 入場無料

## 講師からの挨拶

---

### 2005年1月を迎えて

火曜日しぜんクラス担当:山下育子

初暦も早半分が過ぎようとしている頃ですが、皆さまお変わりなくお過ごしのことと存じます。思い返せば、昨年1年間は国内外共に天災や痛ましい事件が多々ありましたが、私個人としましては起きている大凡の時間を園内で過ごし、しかも瞬く間に多くの時間が過ぎ去って行ったように思えます。

そんな年末の冬休みに入った暮れに、禅寺 那谷寺(なただら/石川県)を訪れる機会がありました。山門をくぐるなり、高い木々に囲まれたほの暗い参道に、苔庭と椿の並木道がつづき、その両際の溝を流れる水の静寂の音を感じながら、自然の懐に包み込まれてゆくような心地よさを感じることが出来たのは幸せでした。森の中の豊かな自然を生かしつつ大切に手入れをされていることが伝わってくる境内です。

" 石山の 石より白く 秋の風 " 松尾芭蕉

『奥の細道』に芭蕉がこの句を残した寺院でもあり、奇岩遊仙境と名づけられたその石山に登るとまた絶景の眺望がありました。木々の青、鳥のさえずり、冷んやりと新鮮な空気を胸一杯に吸い込むと、やはり<自分>という人間は、心も体も<自>然の<分>身なのであって、そこから生きるためのエネルギーを得ることにより、今もここに自分があるという有り難い感覚を再び実感できる思いがしました。

「小学生しぜんクラス」はただいま冬休み休講中ですが、春に向けての準備をしているところです。クラス子どもたちには、一度2月22日(火)に集まって、冬の自然の中に何か発見した出来事があれば報告してもらおうことになっています。私も楽しみにしています。(山下育子)

---

### 新年の信念・2005

火曜日ことば・日本語の読み書き担当:南雲泰輔

どうも新年明けましておめでとうございます。年末年始は中越地震で被災した新潟に帰って来ました。列車の中からも損壊した家々を覆う青いビニールシートが目につき、いつもの帰郷とはどこか趣きが違っていました。幸いに実家は同じ中越にありながらも何ともなく、やはり家族揃って新たな年を無事に迎えることの出来る幸せを改めて思いました。

つねづね感じることですが、ひとは「あたりまえのこと」が、実は「非常に稀なこと」である、ということをお忘れがちなのは一体なんであるか。これは要するに貴重な偶然に満ちた、ある一日の出来事を、あとから「それは必然であった」として追認してしまうということであるんじゃないか。

毎日がルーティンに(同じことの繰り返しで)過ぎてゆく、というのはものすごく平穩無事だということで、実はとても幸せなことなんではないでしょうか。しかし幸せの上にあぐらをかいてはほんとにルーティンで退屈な生活になってしまう。地味かもしれないけれど、その中で何かを着実に摘み取っていくという意志(まさに *Carpe diem*...)をもつこと、これがとても大切であると同時に意外と難しいことは「三日坊主」という言葉にも端的に表れています。

僕の授業でも他の先生の授業でも、一日なにか一つでいいから「これだけは覚えた、納得した、面白いと思った」ということを見つけて麓において行ってください。僕もそんなふうに思ってもらえるように頑張ります。(南雲泰輔)

---

---

## 「自分は何をしたいのか」

水曜日ことば・木曜日かず担当：宇梶卓

皆さん、新年あけましておめでとうございます。年が明けたばかりなのですが、少し暗い話を取り上げようと思います。

以前、『フリーター亡国論』という本を読んでいたのですが、現在アルバイトで生計を立てているフリーターの人口は約417万人に達しているとのことでした。その後、著者の丸山俊さんの講演会に出席する機会があり、直接お話を伺わせていただきました。そこでフリーター増加の原因として挙げられていたのは、経済的不況のほか、若者の間に「何をすればいいのかわからない」「自分は何をしたいのかわからない」という考えが蔓延している、というものでした。また、就職しても職場の雰囲気馴染めなかつたりして、一～二年以内に離職してそのままフリーターになってしまう人が大変多いそうです。

「自分はなにがしたいのか」という問いを先送りして勉強してきたその果てに、不本意ながらフリーターに甘んじるというのはとても悲しいことです。未来のことを先送りせずに、普段から「自分のやりたいこと」を把握していかなければならないのでしょうか。

ただ、決してそれを一つだけに限定する必要はありません。例えば、青春ライブに出席された方ならご存知のこととは思いますが、講師の方々皆「自分のやりたいこと」を見つけるためにあれこれと模索し、様々なことに挑戦されていました。僕自身、大学院で心理学の研究を専門にしているにもかかわらず、いろんな社会活動に関わったりと自分の関心を広く持っています。以前に青春ライブでお話した通り、「私は人間である。人間に関わることなら何でも自分に無縁であるとは思わない。」(Homo sum. Humani nil a me alienum puto.)が僕の信条ですし、是非皆さんも多くのことに興味をもって取り組み、学んでいって欲しいと思っています。

まずは何でもいから気になること、面白そうなことに手を出してみる。そこから一つ一つ学んでいく。今年はそのようなお手伝いができればと思っています。

今年もよろしくお願いします。(宇梶卓)

---

## 少年…

火曜日数の世界・小学生かず担当：福西亮馬

「少年老い易く学成り難し」

はじめてこれを知ったのは、井上靖の『しろばんば』を読んだ時です、という人は、何も私一人ではないかもしれません。作中では、主人公の隣で、女子が火の中に書初めを投げ入れた時、「少年…」のこの字がちらと見え、気持ちが改まったという情景です。

どんと焼きという火祭が、私が小学校時分に住んでいた家の、近くの神社でもありましたが、今でもそれを、もう一度見たいと思う時があります。

「少年…」の句の意味は、文脈では必ずしも勤勉さを表していたわけではないのですが、私はあえて見過ごすことにしています。(もう一つの意味が気になる方は、ぜひ漢文(つまり原文)を探ってみてください)。

というわけで、ここからが本文なのですが、昨年、小学生を通じて、私はドリルの大切さを痛感しました。それはまた昨年の大きな収穫でもありました。そして「勉強を見てもらった」という、単純な、進行形の作業を、私が担っている時に、これは、手元にあるドリルを超えて、その生徒の可能性を信じている作業でもあるのだと気付かされました。

私の経験で言うと、とりわけ6年生の間にコツコツとしていたことは(たとえば算数ドリルが「数学」と名前が変わった後にも)、自信のポテンシャルになると思います。中学という節目を迎える時間は、あとわずかに思えますが、意外にまだまだ入る袋のようです。その中身が、私は机

に向かう時に、原点となって思い出されます。「あの時、やっておいてよかった」と、後々の自分をいつまでも「救われた」気持ちで振り返らせてくれているのです。

一方で、自分が今、ある程度「賢くなった」と感じる瞬間にも、ふと、やはりあの時が思い出されるのです。「あの時に戻って、もっとしておきたかった」と。後悔はやはりさびしいすき間です。今する勉強はたくさんできて、あの時の勉強はもうできないからです。

それとセットで思い出すことは、友達と寒空の公園に集って遊んだことです。これも、「後悔がないように」と、あの時は必死に遊んでいたのかもしれない。

遊びと勉強のどちらかだけでは、どちらとも、さびしいすき間になってしまうでしょう。遊びから帰ってきて、その日の夜に宿題（がなければ自主的なドリル）を終えてしまい、そのまた次の日に遊びに行く、というサイクルは、誰しも無理せずにできると思います。そして山の学校に来ている生徒たちには、そのどちらもプラスの思い出にしてほしいです。いわんや、興味のある事をや。どちらかではなく、どちらも。宇梶先生が書かれています、私もそのような気持ちでお手伝いをしたいと思います。本年もどうかよろしくお願いします。（福西亮馬）

## 「山の学校」生徒募集中！ （各クラス5名まで）

### 平成16年度の時間割（冬学期）

	4:10-5:10	5:20-6:20	6:40-8:00	8:10-9:30
火	しぜん低学年（休講） しぜん高学年（休講） ことば高学年A かず中級	ことば高学年B	中1英語の基本 プレ英語（小6）* 日本語の読み書き （高1~3）	英語の読み書き （高1~3） 数の世界（高1~3）
水	ことば低学年 ことば中学年			ラテン語講読Ⅰ
木	かず初級 かず上級		中2英語の基本 数と自然（高1~3）	中2数の基本 ラテン語入門
金	やまびこクラブ （16:00~17:30 月1回）		青春ライブ授業！ （19:00~20:30 月1回）	ラテン語講読Ⅱ

\* 「プレ英語」は1月11・25、2月8・22、3月8日の5回です。（6：40～7：40の1時間）

#### 小学生の部

『ことば』低学年（1・2年）	山下一郎
中学年（3・4年）	宇梶卓
高学年AB（5・6年）	南雲泰輔
『しぜん』低学年（1・2年）	山下太郎
高学年（3~6年）	山下育子
『かず』初級（1・2年目安）	宇梶卓 / 山下太郎（隔週制）
中級（3・4年目安）	福西亮馬
上級（5・6年目安）	宇梶卓 / 福西亮馬（隔週制）

講師が「——」のクラスは、希望者を5名まで受け付けます。希望者がいる時点から、上記の講師たちによる新しい授業が展開されます。

#### 中学生・高校生（一般）の部

『日本語の読み書き』	中(1~3)	——
『英語の基本』	中1	藤田透
	中2	山下太郎
	中3	——
『数の基本』	中1	——
	中2	下村昭彦
	中3	——

『日本語の読み書き』	高(1~3)	——
『英語の読み書き』	高(1~3)	藤田透
『数と自然』	高(1~3)	下村昭彦
『数の世界』	高(1~3)	福西亮馬
『ラテン語』（入門・講読）	一般	山下太郎

第10回目(2004年12月18日)

講師:青木信也(滋賀医科大学4回生)

題名:『君の好きなことはなに?』

僕の好きなことは出会いです(笑)』



今回の話題は、

1. 好きなことはなに?
2. いやなことはなに?
3. どんな仕事を知っている?
4. 今まで出会った人は何人?

青木先生は、大阪(生まれ)→嵯峨野(小学生)→滋賀(中学・高校生)と引越しを経験され、その都度違う環境や、人との出会いが自分を形作った思い出、また「～になりたい」という憧れの経歴を、たくさん話してもらいました。

少年時代は、まだ医者という道は漠然としていたようで、出会った人の影響から、保育士もいい、看護師もいい…しかしどういふわけか、また「医者になりたい」思いに戻ってきたという展開でした。その医大に入るまでの勉強のがんばりぶりは、正直な、とても参考になるエピソードだったように思います。本当に話してくださって、ありがとうございました。

最後に、「僕からみんなに伝えたいこと」では、「人生一回性」というメッセージをいただきました。そして…

## 1. やるならとことん!

中途半端な努力は結果が出なくて一番しんどいから。

## 2. 思い立ったらまず行動!

人の迷惑も意識しよう。良くも悪くも自分に返ってくるから。

「人生は一回きりだから、納得できるよう、あれこれ試してみてください。自分に嘘をつかないように。でも、これだ!」と思ったことに熱中しはじめると、つい、周りが見えなくなってしまっ、人に迷惑をかけることが多いから、そのことにも気をつけてください」というアドバイスは、なかなか奥深いと思いました。

これは後日談のひとつですが、最後に、席を立った生徒の一人が、「帰ったら、英単語を覚えようと思います」と、私に洩らしてくれました。もし自分が英語をも克服したなら、自分の好きな数学にとっても、より大きな可能性が拓かれることを自覚してだと思えます。そうして

じかに講師と向き合っ、英語のことについてたずねていました。

「どんなことにでも、最低限、覚えないといけないことはあるよ」

「それが英語では、単語。でも逆に、それをおさえたら、後はできるようになるから。君だったらその力があると思うし、今はまだそこまで行っていないだけだと思う。だからまず、単語から始めてごらん」

その生徒は、まだ自分が英語を苦手かどうか判断を下す前の段階にいるんだと気付いて、自信を取り戻したようでした。

文責 福西亮馬

## ——ライブ授業の感想——

○青木先生の好きなことは、「出会い」でしたが、あなたの好きなことはずばり何ですか?

天文地学部のみんなで流星群を見ることです。この前のふたご座流星群では、109個見ることができ、火球は9個ぐらい見ることができました。一番多かったのはしし座流星群で、約200個でした。すごかったです。僕らが観測した中で一番でした。

他にもガンプラを作るのが好きです。——高1

- ・数学の問題を考え、それを解くこと
  - ・遊ぶこと(ゲーム、将棋、友達など)
  - ・ピアノ練習
  - ・人と話すこと
- などです。

とりあえず英単語を覚える努力をしようと思う。(冬の宿題でもあるので)——高1

私は青木先生のライブ授業を聞いて、すごく共感したところがあります。旅先で人と出会うのが好き、というところ。私も同じです。外国の人とか、外国から帰国した人等から、色んな話を聞くことにとっても興味があります。だから多国籍の言葉を話せるようになりたいです。そして、様々な国の人が集まって、食事をしたり、お酒を飲んだりしているところに混じって話すのが夢です。

だから私の好きなことはズバリ「出会い」。一緒です。前から変わりません。——高1

次回!『青春ライブ授業!』

講師:細水康平

日時:3月上旬(日程調整中)

\*太陽電池の若手研究者です。留学から帰って来たばかりのお話を生でお聞きしたいと思います。

## 『おもひでゴソゴソ』——コラム——

今年のお正月は雪が積りましたが、雪好きな人と、面倒だなあと思う人の割合は、どれほどなのでしょう。

——あの白いものを見ていると、私は無性に心が惹きつけられます——と、私もメルヘンチックに言いたいところですが、悲しいかな、「あ、雪だ」の次に「寒い」と口走ってしまっています。そして昔を思い出して、ちょっとさびしい気持ちにもなります。

ある2歳の男の子が、はじめて雪が積もっているのを見た朝に、「だれや、こんなにようけ、ちらかしたのは」と怒った、というエピソードを聞きました。私もそのお母さんと一緒に笑いました。

雪合戦をするつもりで、車上の雪を集めているうちに、お駄賃をもらった覚えがありますが、雪は、どんなに欲張って集めても、だれも怒ることがない、冬の贈り物だと思います。

12月の山びこクラブでは、はっぱで遊びました。はっぱを冬ならぬ季節の贈り物と思って、サンタのもどきが持ってきたという設定遊びです。はっぱは幼稚園の山のもみじと、御所の落ち葉を集めてきました。遊びに来てくれたお友達は、まるでハナムグリが花粉を集めるように、きゃあきゃあ中で埋もれて遊んでくれたので、私も甲斐があったというものです。

## 1. 幼稚園で…

さてこの遊びを思いついたのは、もともとは、幼稚園の遊びがきっかけでした。年少組さんが、「はっぱのおふろ」をしていたのを教えてもらったからです。



はっぱのおふろ（写真：のりこ先生）

お部屋の戸がガラガラと開いて、お庭に出ていく瞬間に、「おふろだって」「たのしみだねえ」という声が園長室のそばで聞こえました。なんと、素朴な！先生たちがまた、実に巧みなのです。期待の膨らませ方が。外でお風呂に入れるなんて。夏じゃないのに、プールみたいなことができるなんて。

（ああ、こういうことは、幸せとして残るのだろうか）と、私はその時思いました。

## 2. 上終公園で…

またある日のこと。幼稚園がひけて、公園で遊んでいる園児たちを見かけました。棒きれをすべらせて、ブルドーザーのようにはっぱを集めています。ベンチの上にこんもりと敷きつめて、寝床をあつらえています。そこからこぼれたはっぱは、またお家になるのだそうです。

この遊びに、私は感心しました。子どもたちは、次々とアイデアが湧いてくるようです。「次、こうしよう」という思いが注がれ、ただのはっぱが、ただならぬ面白さを帯びていきました。

これをお手本に、私も「やってみよう」と思ったのは、その時です。いざ、今度の山びこクラブで！

はっぱの準備をしている間ほど、街中の落ち葉という落ち葉が、宝物に見えた日はありませんでした。そして御所では、一本の木からこんなに落ちているものかと、眼を丸くしたものです。そこでガサガサ、ゴソゴソしている私の姿は、さぞかし変に映ったことでしょう。でも幸せでした。

## 3. ふたたび幼稚園で…



小学生にも、はっぱのおふろ。



こうして、私は自分の原点を思い出した気がしたのでした。見つめると、夕日がとてもきれいでした。

こうしたシンプルな思い出遊びが、どうか、いつの時代の子どもたちの心にも、降り続けますように。

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ しぜん(冬季休講)</li> <li>○ かず(小・中級)</li> <li>○ プレ英語(小6)</li> <li>○ 中1英語の基本</li> <li>○ 英語の読書(高校)</li> <li>○ 数の世界(高校)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ことば(小・低学年)</li> <li>○ ことば(小・中学年)</li> <li>○ ラテン語講読 I</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かず(小・初級)</li> <li>○ かず(小・上級)</li> <li>○ 中2英語の基本</li> <li>○ 中2数の基本</li> <li>○ 数と自然(高校)</li> <li>○ ラテン語入門</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ラテン語講読 II</li> </ul>	
10	20	30	40	5 ミニミニ am10:00~11:00
80	90	100	11休	
150	160	170	180	19 ふれサタ am9:30~11:00
220 しぜん pm4:10~5:10 *しぜんクラスの生徒は、この日集まって下さい。	230	240	250 山びこクラブ pm4:00~5:30	

○…「山の学校」の日 休…休講 \*2月の青春ライブ授業!は3月初旬予定

## 『声』

no.12 山下育子先生

—「しぜん」クラス

本日のテーマ “サツマイモ” <石焼きいもをしよう!>  
(秋の味覚の一つ、サツマイモについてみんなで考えました)

今日は、お庭で小石を集めてきてみんなに炭火をおこして石焼きいもをしてもらう予定でしたが、時間が足りなくなり、残念ながら室内での石焼きいもとなりました。



石焼きいも壺で石焼きにする間、“安納いも(種子島産)”からいいにおいがただよ、クラスはおいもの香りに包まれました。

『いーしゃーきいも〜』  
『いもいも』  
『まだかなあー』  
『ほくほく、甘いおいもになるかなー?』  
『うちのおばあちゃん は、こんなに大きなお鍋で作らはるよ』  
…おいしいね!石焼きいもは、65度くらいで焼けるのが、甘さのヒミツだって…



終了後は、Sちゃんがお家と学校にいる時に作ってきた「めんこ」のお披露目があり、裏が返るまでみんなで勢よくめんこ投げをして遊びました。

(11月16日の記事抜粋)

\*詳しくは、山の学校ウェブログ: カテゴリーしぜん参照。



## 『声』

no.13 南雲泰輔先生

—「ことば」クラス



どうもあけましておめでとうございます。  
火曜日ことばの南雲です。今日は小学生クラスで書初めをしました。

聞いてみると最近の小学校では書初めもしないそうで、毎年のように冬休みの宿題といえば書初めと思っていた僕とは(年の)ギャップも感じましたが、僕も久しぶりにまともに紙に向かうことになり、下手になったなあという感じもしました。

普通の楷書体より少し崩した字体(行書までいかない)で書こうと思ったのですが、例えば草かんむりなど、真ん中を離して書いたら、「何それ、くさかんむりちゃうの?」というふうに、いつもと違う書き方に戸惑っていたようです。

ほんとは一人一作品にしたかったのですが、いかんせん量が多いので時間内に終わらず、小学生4人の合作ということになりました。

たった一時間ちょいしか練習しませんでした、結構見事に書けていると思います。

字は性格が現れるというか…(笑)

また来週は通常授業に戻りますので、最後の学期、頑張っていきましょう。(1月11日の記事より)

「山の学校」のホットな情報はウェブログから!  
<http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>